

質問紙法の心理検査における「答えにくさ」の主観的弁別

回答者の自己報告に基づく困難感の多次元構造的検討

分寺杏介(神戸大学)・馬場絢子(奈良女子大学)・福島綾(一宮メンタルクリニック)

✉ bunji@bear.kobe-u.ac.jp

※ 本研究は、公益財団法人電気通信普及財団の研究調査助成を受けて実施しました。

※ 追加調査で使用した検査項目は、株式会社三京房・日本心理テスト研究所株式会社の許諾を受けました。



▲ポスター

背景

- 心理尺度への回答には、様々な認知プロセスをこなす必要がある
【例】CASM response model (e.g., Tourangeau et al., 2000)



- 心理尺度への回答に際して、**回答者ひとりひとりが尺度に対して感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に捉えられるようなツール**は十分に整備されていない
- 過去2年間、回答者が感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に評価できる項目案を作成したが、**項目間の十分な弁別が得られなかった**

目的

回答者が感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に評価できる項目案(および調査方法)の改善

尺度項目

「答えにくさ」評価要素

【個別】先行調査(馬場他, 2025)および回答プロセスの知見(Tourangeau et al., 2000)を元に「答えにくさ」の原因を具体化した選択肢を作成

回答困難項目

評価項目に対応した「答えにくさ」を含むと想定される質問文を作成
▲ 下表中の枠付きが「想定」

調査方法

クラウドソーシングを利用したウェブ調査

【調査協力者】日本語話者 997 名

- 下記「回答困難項目」に6+1件法で回答
全く当てはまらない……非常に当てはまる **+ わからない**
- ランダムに提示された3つの「答えにくさ」評価項目について最大3つの「答えにくさ」評価要素を選択して回答



◀ デモ

回答困難項目(+ 回答しやすい項目: E)

- 自分には頑固な部分があると思う
 - 出かけるときは身体が重い
 - いつもより、それはどうしたんだろうと思う
 - 人と関わるのは嫌いではないと思わないわけではない
 - 飛行機を操縦するとき、緊張より楽しみのほうが大きい
 - 先週の水曜日は良い一日を過ごせたと思う
 - 最近、性的欲求を感じることもある
 - 読書をしたり、体を動かしたりするのが好きだ
 - 貯金額は人並み以上にある
- E1 1人で過ごす時間は気楽だ
E2 いま、悲しいと感じる
E3 自分には助けてくれる人がいる

結果

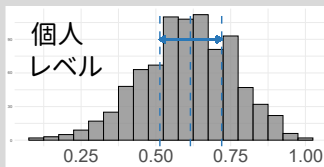
【各評価要素の選択率】 答えにくい → 答えやすい

「答えにくさ」評価要素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	E1	E2	E3
1 この項目にはわかりにくい言葉が入っていると感じた	0.82	0.01	0.18	0.33	0.01	0.00	0.00	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00
2 この項目の意味がわかりにくかった	0.43	0.04	0.89	0.86	0.08	0.01	0.01	0.08	0.00	0.00	0.01	0.00
3 この項目に関する自分の状態がその時々で変わりやすいために、回答を迷った	0.04	0.32	0.08	0.08	0.03	0.05	0.11	0.21	0.04	0.09	0.11	0.11
4 この項目は解釈の仕方によって、回答が大きく変わりうると感じた	0.04	0.09	0.24	0.12	0.07	0.05	0.05	0.16	0.16	0.03	0.06	0.09
5 この項目が指す状況に置かれている自分を想像することが難しかった	0.05	0.03	0.17	0.04	0.71	0.13	0.03	0.04	0.02	0.01	0.03	0.03
6 この項目に関連することを正確に思い出すのが難しい	0.02	0.03	0.05	0.02	0.05	0.59	0.02	0.01	0.03	0.00	0.01	0.02
7 この項目では、各選択肢がどの程度を指すのかわかりにくかった	0.04	0.08	0.11	0.07	0.02	0.04	0.07	0.12	0.21	0.02	0.06	0.08
8 この項目に正直に回答するのをためらった	0.03	0.01	0.05	0.04	0.04	0.01	0.40	0.01	0.24	0.00	0.03	0.02
いずれも当てはまらない	0.06	0.56	0.02	0.03	0.20	0.32	0.48	0.55	0.49	0.89	0.79	0.77
「わからない」選択率 (%)	32.2	0.4	42.8	9.2	29.3	10.9	1.1	1.2	4.0	0.1	0.4	0.6

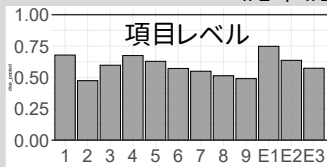
追加検証

1 評価の安定性の検証

調査協力者 ↑の調査回答者に直接依頼→再度回答した852名
手続 約1ヶ月後に「答えにくさ」評価要素の選択パートのみ実施
結果 Dice係数(スペースの都合) $Dice = \frac{2(\#1 \cap \#2)}{\#1 + \#2}$



Med. 0.615 (IQR 0.513-0.720)



Mean 0.594 (Range 0.474-0.748)

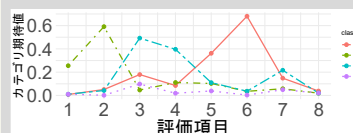
2 実際によく用いられる心理検査項目に適用

調査協力者 クラウドソーシング・日本語話者述べ3674名

心理検査 AQ(50項目), LSAS-J(24項目), YGPI(120項目)

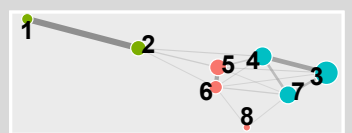
手続 検査内のランダムな15項目について↑と同じ手続

結果 ▼ 潜在クラス分析



(各項目別の選択率は個別にお見せします。お尋ねください。)

ネットワーク分析▼



考察

「答えにくさ」の要素を相対的に評価することは十分にできる可能性がある
再検査信頼性はあまり高くなさそう(回答形式的にある程度低くはなりやすいが……)

▲測定の問題か、瞬間的な知覚の変動しやすさか

答えにくさはいくつかのグループに大きく分類できそう

実際に使われている心理検査でも、人によっては「答えにくい」という感覚を持ちやすい

▶ 作成した項目で検証してみることの重要性、個別具体的なサポートに繋がると良い

参考文献

馬場 絢子・分寺 杏介・福島 綾(2025). 心理尺度回答におけるクライアントの「つまづき」と心理職のサポート 心理学研究.

Tourangeau, R., Rips, L. J., & Rasinski, K. A. (2000). *The psychology of survey response*. Cambridge University Press.

